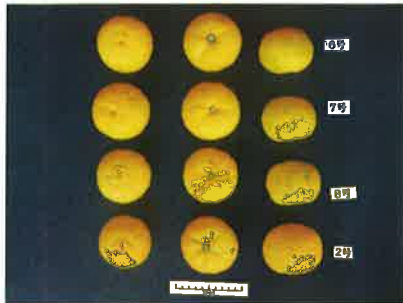


試験研究活動情勢報告（平成29年11月分）

【果樹試験場】

トゲなしユズ（高知果試選抜6，7，8号）の収穫調査



収穫時の果実

ユズはトゲが大きく長いため、せん定や収穫などの作業中にトゲが刺さらない様に注意が必要で、作業時間の短縮が難しくなっています。また、トゲにより果実が傷つき、青果出荷率も低下します。

当场では、「トゲなしユズ優良系統の選抜」に取り組み、現地4カ所（安芸、物部、土佐山、十和）と場内で試験を行っており、11月上旬に農業振興センターの協力により現地ほ場の収穫をしました。各ほ場による多少の違いはあるものの、今年度の調査では「選抜7号」の凸型こはん様症の発生が少ない傾向がみられ、外観品質が優れていました。今後も調査を継続し、平成30年度までにトゲなしの有望系統の選抜・増殖を行います。

ユズに発生するエクボ症の原因解明と対策技術の開発



エクボ症発生果実

冬至用ユズは、10月下旬から11月に収穫した後に、短期貯蔵され、12月上中旬に市場出荷されます。この短期貯蔵中にエクボ症と呼ばれる果皮が陥没、褐変する障害が発生し、問題となっています。当场ではエクボ症の原因解明とともに対策技術について取り組んでいます。

今年度はカルシウム資材による果皮の強化や高温予措等による発生軽減効果の検討を実施しており、12月下旬に果実調査を行う予定です。